

令和8年1月29日

## インドネシア官民合同委員会結果概要

日時：2026年1月22日(木) 尼時間 09:00-12:00  
場所：国家職業資格認証機構(Badan Nasional Sertifikasi Profesi/BNSP)  
参加者数：25名  
政府(17)： 尼 国家職業資格認証機構(BNSP) (9名)  
          金属・機械加工分野試験協会(LSP-LMI)(2名)  
          日 厚生労働省 (3名)  
          在インドネシア大使館 (1名)  
業界団体(4)：インドネシア金型工業会(IMDIA)(2名)  
民間企業(5)：PT.EPSON(1名)、PT.TOYOTA(1)、PT.Denso(1)、PT.EBARA(2)、  
有識者(1)：SESPP 事務局技術顧問(1名)  
事務局(2)：JTB 霞が関事業部(2名) (別途、日尼通訳1人)  
場 所：BNSP2階会議室

---

### 1. 今年度の成果(SESPP 事務局、IMDIA)

#### 技能検定

・平面研削盤作業2級技能評価者講習(SAT)/技能評価トライアル(SET)

1月5日～9日、松下ゴーベル財団・ハイテク金型センター(HMTC)にて実施。

結果：SAT 受講者7名修了者7名、SET 評価者7名、受検者4名、内合格者1名。

### 2. 次年度実施に向けた提案(厚生労働省)

#### ①SESPP 事業の最終目標：

技能評価システム(技能競技大会・技能検定)を構築することにより、技能労働者の育成及び能力向上を図る。

#### ②技能検定・技能競技大会の目標・活動

・技能検定・・・目標：技能検定の定着及び実施職種のレベルアップ

活動：2025年までの事業のフォローアップ(評価者講習、技能評価トライアル)

新たな職種への取組

#### ③2026年度の事業実施案：技能検定

・2025年度までの事業のフォローアップ(平面研削盤作業2級 SET 又は金属プレス2級 SAT/SET)

新たな職種への取組

### 3. 官民合同委員会での主な意見

#### (1)次年度以降の支援職種について

・5軸マシニングセンタ、メカトロニクス、CAD-CAM等、11の職種を新たに実施したい。

研修実施のための設備・機器類は全てハイテク金型訓練センターにそろっている。(IMDIA:Rudinato氏)

- ・企業のものづくりの現場ではロボット溶接のニーズが高いと認識し、同職種の支援を希望する。自動化に向けての動きが企業の現場で広がりつつある。(LSP-LMI:Bambang Nurcahyono 氏)

## (2)インドネシアにおける技能検定の取り組みと課題について

- ・IMDIA が行った国家技能検定では、現在まで 4,298 名が受検し、2,554 名が合格している。(合格率 59%)  
評価者は 3 年毎に資格の更新が必要で、更新しない人や、離職してしまう評価者が多い。離職した後は、その後評価者としての活動をしない。評価者育成のための研修を実施しているが、まだまだ足りていないのが現状である。(IMDIA:Rudinato 氏)
- ・技能検定において受検者を増やし、合格者を増やしていくことは重要であるが、合格しても技能レベルの質が高くなければ意味がないので、質の担保に留意する必要がある。  
評価者の不足については、離職した評価者に引き続き、評価者をつとめてもらうよう働きかけたり、新たな評価者を育成していくことで解決できると思う。(BNSP:Amilin 氏)

## (3)インドネシアにおける平面研削盤作業の技能検定の実施状況について(IMDIA:Ari Septi 氏)

- ・SESPP の支援のもと、2010 年度より実施している。
- ・2010 年度からの累計で、3 級は 50 名が受検し、39 名合格(合格率 78%)、2 級は 16 名が受検し、11 名合格(合格率 68.75%)、1 級は 2012 年度に 1 回だけ実施しており、2 名受検し、1 名が合格(合格率 50%)している。

以上